

赤水の偉業 理解深める

日立の市民団体が勉強会

高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）について知ろうと、日立市の市民活動グループ「熟年ネット・ひたち」は9日、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長を招いた勉強会を同市鮎川町の市女性センターで開いた。佐川会長が地図を使いながら講演し、メンバー約30人が地域の偉人への理解を深めた。



赤水図の拡大タペストリーを使って解説する佐川春久会長（左）と参加者＝日立市鮎川町

佐川会長は、日本で初めて経緯線のある全国地図（赤水図）を完成させた赤水是儒学、天文学、農政学など

にも精通し「幅広い活動をしている。伊能忠敬とよく比較されるが、比べることができない」と説明。赤水自身は地図作りを「余技」（趣味）だと書き残していることも紹介した。

赤水図を2倍に拡大したタペストリーを会場の中心に敷いて指さしながら「火山活動や、福島県いわき市四倉沖で見られた不思議な現象などについても描かれている。河川が非常に細かく描かれ、（江戸時代の）経済活動に必要な不可欠な地図だった」と解説した。

佐川会長は「今年、中学校の教科書にも載り、今後は試験問題にもなると思う。読み込むことによって地図の価値がますます深まってくる」と強調した。

参加者はタペストリーを囲み、日立市内の地名を確認するなどして楽しんでい

た。メンバーの富田滋男さん(79)は「赤水の資料が国重要文化財に指定されたと知って興味を持った。こういう勉強会がいろいろなところで開かれて、多くの人に広まってほしい」と話した。（小原瑛平）

